

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	16100000	都市政策部 都市計画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	07	土木費	04	都市計画費		01	都市計画総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-				目標値	-	
中事業	08	主要な取り組み	—								
小事業	11	都市計画事業			目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	今後、人口減少、少子高齢化社会の時代が予測されており、中心市街地郊外では住宅開発やスポンジ化が進展し、点在した公共施設の整備は非効率の点から行政サービスの低下につながる恐れがある。厳しい財政状況の中、公共施設の老朽化対策、整備は喫緊の課題である。そのために、公共施設をまとめて立地し、各地区を公共交通、ネットワークで結び、生活利便施設を都市機能誘導区域に集中させ、コンパクトなまちづくりを進める必要がある。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 市民、都市計画事業等の推進及び国補助事業の活用 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 都市計画マスタープラン、立地適正化計画に基づくまちづくり将来像、土地利用に対する都市計画施設等の整備・開発、保全を推進する。計画的で秩序ある土地利用を誘導する。 都市機能等を誘導区域内に誘導促進することにより持続可能な都市づくりを実現する。				
	事業概要	・都市計画の決定及び変更 ・立地適正化計画推進・運用（改正都市再生特別措置法） ・都市計画マスタープラン推進・運用 ・国土利用計画法に基づく届出・調査 ・地理情報システムの保守管理 ・社会資本整備総合交付金等の活用 ・都市計画事業の推進のために必要な情報収集 ・都市計画基礎調査の実施				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	7,671	6,652	48,339	10,955	10,939
	決算額	6,717	1,417	46,600	9,017	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	6,430 / 0				



アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	都市再生整備計画（都市構造再編 集中支援事業） 計画事業申請・採択件数	目標値	3	3	6	6	6
		実績値	4	4	6	6	



アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	美濃太田駅、古井駅周辺に生活利便施設があり、便利だと思う人の割合（％）	目標値	37.1	37.3	37.5	37.7	37.8
		実績値	37.1	35.8	64.9	65.1	

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画的に都市機能誘導区域や居住誘導区域内に、公共施設（保健センター、保育園、道路、都市公園）の整備が図られている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	立地適正化計画に基づく都市機能及び住民の誘導促進が少しずつ進んでいるため、美濃太田駅及び古井駅周辺の都市機能誘導区域内のまちづくりに対する満足度の割合が高い（市民満足度調査の結果）
	実績からR06年度の事業の方向性	都市構造再編集中支援事業完了に伴う事後評価を実施し、今後の都市計画事業に役立てる。都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づき、持続可能な都市づくりを推進する。

令和 5 年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	16100000	都市政策部 都市計画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	07	土木費	04	都市計画費		01	都市計画総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-				目標値	-	
中事業	08	主要な取り組み	—								
小事業	34	景観保全事業		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	美濃加茂市は貴重な資源となる自然、文化、歴史があり、これら資源と共生し美濃加茂市らしい景観を維持する必要がある。屋外広告物については、今のところ、老朽化等により公衆に危害を及ぼす事例はないが、問題が生じないよう、管理者に適正管理を促す必要がある。				
	事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 市全域の集落、住宅地、工業地、商業地等の景観 (2) 目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 景観計画、屋外広告物条例に基づき各地域の特性ある景観を保全するまちづくりを推進する。 保存樹の保全による緑化の推進、景観形成、自然保護等美濃加茂らしい良好な景観を形成するため				
	事業概要	・本市の良好な景観を保全、また地域の特性にふさわしい景観を形成する。 ・景観計画、景観条例の運用、保存樹の保全、屋外広告物規制等の周知・啓発を行う。 ・景観保全団体との協働により景観形成を推進する。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,186	1,186	1,065	1,039	1,033
		決算額	731	507	509	428
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		980 / 0				



アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	屋外広告物違反等指導回数(新規・更新時)	目標値	5	5	10	10	10
		実績値	10	12	13	18	



アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	屋外広告物違反広告物の是正件数	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	5	9	6	18	

実
績



評
価
分
析

実 績	景観条例・計画の適正運用 保存樹適正管理 屋外広告物規制の適正運用・啓発活動 1回
効 果	美濃加茂市景観計画に基づく、行為の制限の遵守、指導や屋外広告物においては無届掲出物や違法掲出物が発生しないよう、啓発活動を行い、適正な掲出、管理がされるよう推進する。その結果、良好な景観の維持につながるるとともに、公衆に対しても危害を招く事故が抑制され、安全、安心なまちを目指すものである。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	無届設置看板や野立広告物の維持管理状況を把握し、設置者に適正管理するよう注意喚起することで意識を高めてもらった。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	無届設置看板や野立広告物の維持管理状況を把握し、設置者に適正管理するよう注意喚起することで意識を高めてもらった。
実績からR06年度の 事業の方向性	新規及び更新時の屋外広告物違反等の是正、指導回数を減少させるためには、未更新物件及び未申請物件の設置者に対して手続きの周知をしていくことで、適切に法手続きをおこなうよう指導を継続していく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	16100000	都市政策部 都市計画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	07	土木費	05	住宅費		01	住宅管理費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-					目標値	-	
中事業	08	主要な取り組み	—									
小事業	35	住宅管理事務		目標年度	令和6年度							



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	市営住宅は、住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃で供給する住宅である。 入居対象者は低額所得者であるが、家賃を滞納することがないよう、関係者には 分納契約の締結、支払いの請求（面談、電話、文書送付）を行なう。入居者の家賃 支払いに対して公平性が欠けることのないよう、事務処理をおこない、家賃収納率 を向上させることが必要である。					
事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 市営住宅の入居者 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 市営住宅使用料の滞納額の削減が図られる。					
事業概要	市営住宅に係る一般事務 市営住宅使用料の収納事務					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	436	431	431	328	523
	決算額	402	174	337	258	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,956 / 0				



アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	現年度収納率	目標値	99	99	99	99	99
		実績値	98	98	99	98	



アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	全体収納率	目標値	99	99	99	99	99
		実績値	93	93	94	95	

実
績



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	現年度の家賃収納率は一時的な家賃滞納者に対して細目な家賃支払い請求（滞納整理など）を行うことで、滞納額が膨らまないように啓発してきましたが、生活困窮者もいるため、未達成となっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	前々から入居してされている入居者の中で、家賃の支払いが滞っている状態。現在は、現年分の家賃支払いを優先させているが、継続して過去年の家賃支払いの請求を行っていく。
	実績からR06年度の 事業の方向性	家賃滞納者に対して、今後も督促、催告、面談、分納契約を行い、家賃支払い請求、家賃徴収事務を継続する。滞納者へ早期に電話するなど高額滞納を未然に防ぎます。

令和 5 年 度 事 業 評 価 書

会計区分	01	一般会計					事業主体	16100000	都市政策部 都市計画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	07	土木費	05	住宅費	01	住宅管理費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-				目標値	-	
中事業	08	主要な取り組み	—								
小事業	36	住宅保全管理		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	各市営住宅は、築造して30年以上が経過しており、老朽化が進んでいる。そこで、長寿命化計画を平成29年に策定しているが、令和4年度には計画の見直しを行い、住宅の耐用年数まで活用できるよう予防保全を目的とした、長寿命化工事を実施する必要がある。				
	事業目的	(1)対象(誰、何を対象にしていますか) 市営住宅の入居者 (2)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 快適で安全な住宅環境を提供することができる。				
	事業概要	市営住宅の適正な維持管理 市営住宅退去後の改修工事 長寿命化計画による大規模改修				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	77,272	92,604	97,341	101,294	105,087
		決算額	76,274	92,324	85,773	100,259
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		954 / 0				

実
績



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	1年に2回(前期、後期)、市営住宅の入居募集を行い、毎回、新たな入居者が応募している。生活困窮者への支援に繋がっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	高齢者の入居希望割合が高いことで、高層階の部屋を希望する方が少なくなっている。また、入居募集の際、空き部屋の改修に多額の費用が発生するため、計画的に改修を行う必要があることから、入居者数の増加まで至っていない。そのため、R6年度から目標値を変更する。
	実績からR06年度の 事業の方向性	老朽化した住宅について、順次、国庫補助金を充ちしながら、長寿命化改修工事を実施していく。また、市営住宅として利用が見込めないと予測される施設については、地域の方と共に、過去や今後の利用状況をみながら、定住促進住宅への移行やその他の活用を検討していく。併せて、入居条件の緩和(市内在住の連帯保証人の撤廃等)についても検討する。



アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	住宅周知回数	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2	2	2	2	



アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	住宅入居率	目標値	92	92	92	92	92
		実績値	83	83	78	79	

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	16100000	都市政策部 都市計画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	07	土木費	05	住宅費	01	住宅管理費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-				目標値	-	
中事業	08	主要な取り組み	—								
小事業	37	定住促進住宅管理		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	三和地区は人口減少が進んでおり、若い世代が少なくなっており、今後、地域のつながりや活力の低下が懸念されている。				
	事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 中学生以下の子がいる子育て世帯 (2) 目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 三和地区の人口減少を抑制することができる。				
	事業概要	定住促進住宅が快適で安心な生活を提供できるように維持管理する。 また、退去後の改修工事を実施して新規入居者を受け入れる。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,134	934	934	915	1,139
	決算額	259	793	740	819	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		161 / 0				



アウト プット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	住宅募集案内回数	目標値	2	2	3	3	3
		実績値	2	2	3	3	



アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	住宅入居率	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	83.3	100	67	67	

実
績

効
果



活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	空き室が発生した都度、速やかに損傷箇所を修繕し、入居募集を行い入居率100%を目指す。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	入居条件として、対象を子育て(中学生以下の子)世帯としていることから、中学校を卒業する等のタイミングと重なり、R6.3月末状況で入居者数6世帯/9世帯となっている。入学や夏休み明けの世帯での入居は想定され、問い合わせもありますが、入居には至りません。
実績からR06年度の 事業の方向性	空き室が発生した場合は、老朽箇所、損傷箇所を予算の範囲内で修繕するとともに、併せて随時、入居募集を行い入居率100%を目指す。 そして、三和地区の活性化につなげていく。